

全通研集会 in 栃木 第2分科会「コーディネーターの役割」参加報告

竹内恵子（相模原市）

1. レポート発表

(1) 「東日本大震災における手話通訳派遣支援経過報告」

発表者：(社)北海道ろうあ連盟 北海道手話通訳派遣センター山下さん（非常勤職員・聴者）

★北海道ろうあ連盟は、道内14の支庁に「北海道手話通訳派遣センター」職員（連盟職員）を配置。本部は北ろう連事務所。100%、道の補助事業で運営。

レポート概要：東日本大震災後の、被災地への手話通訳派遣の経過、課題など

- ・ 3/14から、関係団体で募金開始（被災地支援のため）。
- ・ 3/31、道より厚労省からの通達を受けての手話通訳手配に関する打診あり、その後、対策中央本部からの派遣依頼（多賀城市、亘理町）あり。
- ・ レンタカー、携帯電話等の手配は全て道がおこなった。道連盟本部は情報収集。

(2) 北海道広域派遣事業検討、札幌市派遣事業の現状と課題

発表者：公益社団法人 札幌市聴覚障害者協会 渋谷さん（協会職員・聴者）

レポート概要：札幌市を中心とした道内の他市町村、道外との広域派遣のあり方など

・ 厚労省事業（「手話通訳等の広域派遣に関する検討事業」）を使って、3年前から道内で検討会を設置、23年4月からネットワーク事業の運営をスタート。広域派遣にかかわるコーディネートの視点、留意点等。

2. 情報交換のトピック

(1) 派遣事業を進めていく上での派遣制度上の課題

- ・ 通訳者の頭数の不足
- ・ 「現場力」（現場での対応力）のある通訳者の不足、通訳者の固定化

(2) 将来的展望を持ったコーディネートとは（通訳者の高齢化をどう打開するか、新人をいかに育てるか）

(3) コーディネーターをどう育てるか（よいコーディネーターがいる地域にはよい通訳者が育つ）

3. 助言者（全日ろう連小中さん）のまとめ

- ・ 求められる通訳者像を、ユーザー側（ろう者）とコーディネーターで照らし合わせ、養成事業に反映すること。
- ・ 「派遣要綱」は最低限の指針。その他の運用面は内規等を作成し文章化していく。
- ・ 全国共通の派遣に関する仕組みの構築を。総合福祉法への反映を。